



教育課程事前授業がおこなわれました

1学期も終わりが近づいてきました。中学校では秋の文化祭や音楽会に向け、合唱の選曲がおこなわれていることと思います。本校でもクラス合唱決めが進んでいますが、流行りの曲を歌いたいという生徒たちの願いと、音楽会にふさわしい選曲の折り合いに苦悩する日々です。

さて、6月26日に、高遠中学校にて教育課程事前授業がおこなわれました。鑑賞の題材は、なんと『サザエさん』！生徒が身近に感じられる教材を使い、音楽の要素を学ぶことができる授業でした。



教育課程事前授業 授業者：高遠中学校 伊藤佳代先生

題材の指導計画(全2時間扱い)

	学習活動	指導	評価
1 本 時	(1)『サザエさん』の原曲とロックバージョン、ジャズバージョンを聴く。 (2)ロックバージョンとジャズバージョンから感じた「サザエさん像」を、音楽の特徴をもとにまとめる。	- 原曲の歌詞をもとに、ロックバージョン、ジャズバージョンを聴くことで、イメージを持てるようにする。 - サザエさんのイメージ像と、その根拠となる音楽を形づくっている要素を付せんにまとめ、模造紙に、共通するものを近くに貼りながら、まとめていくよう促す。	音楽を形づくっている要素をもとに、ロックバージョンとジャズバージョンの、それぞれの特徴を感じ取り、曲想とのつながりを理解することができる。
2	(3)自分が選んだバージョンの『サザエさん』のよさを友に伝える紹介文(プレゼンテーション)をつくる。 (4)作った紹介文をグループで発表し合い、それぞれのよさ理解する。	- 教師が、原曲をもとに紹介文を作ったものを見本として紹介することで、活動の見通しが持てるようにする。 - 前時に感じ取ったイメージや音楽を形づくっている要素をもとに、自分の考えを交えながら紹介文をつくることを伝える。 - 発表時には実際の音源を使用して、具体的な音楽要素の特徴に触れながら、それらのよさを伝えられるようにする。	- ロックバージョンやジャズバージョンの音楽の特徴やよさについて、自分の考えをまとめ、発表することができる。 - ロックやジャズの音楽の特徴について知ることができる

本時案

(1)主眼

『サザエさん』のロックバージョンやジャズバージョンの特徴を考える場面で、ロックやジャズから感じるサザエさん像やそう感じる理由を、音楽を形づくっている要素と結びつけて、付せんを使いながら模造紙にまとめることを通して、リズム、楽器の音色、速度などを根拠に曲想の違いを感じとることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	○指導・支援・評価	時間
導入	1 『サザエさん』の原曲を聴く。	- よく知っている曲だ。 - サザエさんがどら猫を追いかけて、裸足でかけていくという曲だったな。 - ゆかいで、陽気で、ちょっとドジなサザエさん。	○『サザエさん』の原曲を聴かせたあと、違うバージョンのサザエさんを聴くことを伝える。	10
学習問題：『サザエさん』のロックバージョンとジャズバージョンの特徴を考えよう。				
	2 ロックバージョンとジャズバージョンの『サザエさん』を聴き、それぞれのどのようなサザエさんが思い浮かぶか考える。	- 同じサザエさんなのに、雰囲気が全然違っておもしろいな。 - ロックの『サザエさん』は、サザエさんが全速力で走っているみたい。激しいな。 - ジャズの『サザエさん』はサザエさんが踊っているみたいだ。	○ロックバージョンとジャズバージョンのサザエさんを聴かせ、それぞれどんなサザエさんを想像したか、発表させる。	
学習課題：それぞれの曲から考えたサザエさん像やその理由をまとめてみよう。				
展開	3 ロックとジャズのサザエさんが思い浮かんだ理由を考え、付せんに記入する。 4 3で記入した付せんを貼り、似た意見や異なる意見を共有し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。	- ロックのサザエさんが速く走っているように感じたのは、速度がすごい速いからだ。ジャズよりも速いな。 - ジャズのサザエさんは、たくさんの楽器が使われていてにぎやかだな。家族全員が集まって話をしているみたいだ。 - ジャズのサザエさんが踊っているように感じたのは、はねるような楽しいリズムだからかな。 - ロックの力強いエレキギターの音色は、カツオを怒っているサザエさんみたいだ。 - ジャズの音の重なり方がおしゃれだな。大人っぽいサザエさんだ。 - 自分は楽器の違いに注目して聴いていたけど、友だちは、リズムに注目して聴いていたな。 - サザエさんが速く走るように感じた理由に、自分は曲の速さを挙げたけど、友だちはドラムのリズムがの細かさを書いていたな。 - 友だちと同じ、楽器の音色に注目して聴いたけど、そこから感じたサザエさん像は違ったな。それぞれの考えやイメージが違って、おもしろいな。	○ロックバージョンとジャズバージョンを聴いて、思い浮かぶサザエさんの姿（黄色）と音楽の諸要素（ピンク色）とをかかわらせながら、感じたことを付せんに記入することを伝える。 ○いつでも楽曲を聴いて確かめられるように音源を準備する。 ○音楽の諸要素や違いを感じ取りにくい場合は「どんな楽器の音がする？」など具体的な要素を教師側が提示していく。 ○付せんをもとに、全体で互いの意見を出し合い、共通点や相違点、新たな気づきなどについて話し合えるようにする。 ・リズム、楽器の音色、速度などを根拠に曲想の違いを感じとることができたか。 ○曲想の違いを感じ取りにくい生徒には、まとめた模造紙を参考にして「リズムはどう違う？」など、具体的に問い返し、確認する。	30

まとめ	5	本時のまとめを学習カードに記入する。	・ロックバージョンとジャズバージョンの曲想が違うと、思い浮かんだサザエさん像も全く違っていておもしろかった。 ・ジャズの楽器の音色も良かったけれど、自分は、ロックバージョンのエレキギターの音がかっこいいと思った。	○ロックバージョンとジャズバージョンの曲想の違いに触れて学習カードに記入させる。 ○次回は、ロックとジャズの中から、自分の好きなジャンルについて紹介文（簡単なプレゼンテーション）を書くことを伝える。	10
-----	---	--------------------	---	--	----



高遠中学校 教育課程事前授業を参観させていただいて

南箕輪中学校 深澤 宏

去る6月26日に、高遠中学校にて伊藤佳代先生の教育課程事前研究授業が行われました。ご案内を差し上げたところ、研究部の先生方以外にもたくさんの音研の先生方にお集まりいただきました。ありがとうございました。

さて、授業ですが、今回、伊藤先生はなんと、教材にアニソン（アニメソング）を取り上げられました。「サザエさん」のオープニングテーマ曲です。教科書中心の（つまらない）授業ばかりしている私には考えもつかないことです。はじめて指導案を見たときは「いったい、どんな授業になるんだ？」という気持ちになったのは事実です。しかし、そんな不安は、授業を参観し終わったときにはすっかり解消されていました。「この授業はすごい」。高遠中学校からの帰りの車の中で、私の頭の中をそんな思いがずっと駆け巡っていました。



何がすごいのか。まず、伊藤先生が、鑑賞の授業のツボといいですか、勘所をいくつもきちんと押さえておられるように思われたことです。ザッと数えて四つほどのツボを挙げてみたいと思います。まず一つ目、どんな曲を教材にするかということです。私の拙い経験から、鑑賞の授業で扱う教材は、子どもたちが「どこかで聞いたことのある」曲が扱いやすいと感じていました。中学校では「運命」などが良い例です。どこかで聞いたことはあるけれどちゃんとは聴いたことのない曲、そういう曲を丁寧に学習して、曲の特徴や楽しさを理解しながら鑑賞できるようになる、というのが、鑑賞の授業の一つのあり方かもしれません。「サザエさん」…すばらしいと思いました。しかし、この曲は「どこかで…」どころではありません。毎週日曜日の夕方、繰り返し繰り返し聴いた曲。日本人なら老若男女誰でも知ってる国民的な楽曲です。さすがに、この曲を改めてじっくり聴こうという気持ちにはなりません。

そこで、二つ目のツボです。この誰でも知っている「サザエさんオープニングテーマ」で生徒の心ががっちり掴んだ伊藤先生は、次の場面で、この曲の「ロックバージョン」と「ジャズバージョン」の聴き比べを用意されていました。比較鑑賞です。同じ曲を違う演奏家で聴いてみる、違う楽器の演奏で聴いてみる、違うアレンジで聴いてみる、など、生徒は、比較鑑賞をすることで、強弱や速度、音色の違いなどによって、伝わってくる曲の感じ（曲想）が変化することに気がつきます。今回の授業でも、このロックとジャズの比較鑑賞が、生徒が音楽を構成している様々な要素を聴き取っていくための大変有効な手立てになっていたと感じました。



生徒でなくても聴く前からドキドキしてしまいます。生徒は導入で掴んだサザエさんに対する「〇〇な感じ」という言語化の思考パターンをもって比較鑑賞に入っていくのです。このツボの押さえは実に見事だと思いました。

最後に四つ目。それは、伊藤先生が、「曲想」と「その曲想を生み出している要素」を違う色の付箋を使って、分けて生徒に書かせていたことです。「要素」も「リズム」「旋律」「音の重なり」「速度」「音色」「強弱」に細分化されて提示されています。生徒は、自分が気づいたことを書いた付箋をそれぞれの要素のところに貼っていけばよいわけです。音楽を聴いたときの気づきや感想を「曲想」と「要素」に分けて言語化させることは、あたりまえのように思われている節もありますが、このことは、授業者がきちんと勉強していないとできないことだと思います。ときどき、この二つがゴチャゴチャしている授業もあります。私の鑑賞の授業は未だにゴチャゴチャしています。「曲想」と「要素」の違いをきちんと生徒に理解させることは、実はなかなか難しいことなのかもしれません。私の授業では、題材の終末の感想でも未だにこの二つが区別されず、ゴチャゴチャと書かれていることが多いのです。悩みの種です。ところが、高遠中の3年生は、ここのところが、とてもすっきりと理解できている様子でした。「どんなことを書いたらいいの？」と質問する生徒が一人もいないのです。これも自分の授業と比較してしまうのですが、「この曲の曲想を書いてみよう」とか「どんな要素が曲想をつくっていると思う？」と質問すると、何を書いたらいいか分からない生徒が必ずいます。困ったものです。

しかし、高遠中の生徒は実にすっきりと先生の質問に答えていました。これはきっと、色分けされた付箋もさることながら、伊藤先生が、普段からそういう授業を心がけてやっておられるからだと思いました。生徒の曲想もとても想像力に溢れています。「オープンカーに乗って片手でハンドルを握るサザエさん」「サングラスをかけてバイクに乗っていそう」などなど。実は、少し、聴き取らせる要素が多いかなとも思ったのですが、生徒は、私が予想した以上によく聴いていました。伊藤先生の発問もあり、ロックとジャズの曲想のちがいを生み出している要素が、およそ、「速度」「強弱」「音色」に集約されていきました。「エレクトリックギター（エレキギターではなくエレクトリックギター）の音がかっこよさを出している」「弦バス（コントラバスではなく弦バス）の弦をはじく音がおしゃれな感じを出している」などの発言には、感心しました。本当によく聴いています。これこそ、普段の授業の積み重ねです。

以上、気づいたことを長々と書いてみましたが、今回の授業参観を通して勉強したことがたくさんあります。早速、自分自身の授業改善に役立てていきたいと思っています。伊藤先生、高遠中学校の先生方、本当にありがとうございました。

さらに三つ目のツボです。これもサザエさんに大きく関係することなのですが、音楽を聴いて、その曲想を言葉で表現するときにイメージを言語化するため、拠り所となる「なにか」が必要です。その点サザエさんはもってこいです。誰でもサザエさんに対するほぼ共通したイメージをもっています。本時の導入場面でも、伊藤先生が生徒にサザエさんのイメージを質問すると、「明るい」「はだしでかける」「ゆかいな人」などの反応がすぐに返ってきました。このようにイメージがもちやすい分「〇〇な感じ」の〇〇がとっても明瞭に言語化することができます。そのほのぼのとした、明るい感じのサザエさんが「ロック」や「ジャズ」になると一体どうになってしまうのか、生徒

